

# VI 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

## ■ 開催概要

- ◆ 日時 : 平成27年2月7日(土) 10:00~18:00
- ◆ 場所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : 受講者41名、JICA8名、NIED5名、合計53名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子

## ■ 第4回のねらい

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ準備を行う。

## ■ プログラムの内容

### ● セッション1 「研修ふりかえり/実践の共有」

#### 1. あいさつ、紹介、第4回のねらいの確認 10:05-[9]

- ◇ 司会あいさつの後、JICAの新任スタッフがあいさつした。
- ◇ レジュメを基に第4回のねらいをファシリテーターが説明した。

#### 2. 第1回~第3回研修のふりかえり 10:14-[11]

- ◇ 第1回~第3回研修のポイントを書いた板書を基に、ファシリテーターが説明した。
- ◇ 第3回研修の主な成果の資料を各自が読んだ。

#### 3. アイスブレイキング 10:25-[15]

- ◇ 「2014年を漢字1字、2015年を漢字1字に表すと」、「研修参加を通して得たこと」、「自分自身の変化」を各自考え、グループで伝え合った。

#### 4. 実践の共有 10:40-[93]

- ◇ 名札に小さく書いてある数字で集まり同じ席に座った。
- ◇ 一言自己紹介として「正月で好きな食べ物」をグループで伝え合った。
- ◇ グループメンバーの実践報告シートを各自読み、それぞれの実践の「ここいいね&ここをもっと聞きたい」をピックアップし、付せん紙に書き、それを実践者に渡した。
- ◇ 実践者はそれに重点的に答える形で実践内容の報告を順に行った。報告時間は、フォーラムでの報告の予行演習も含めて、フォーラムでの報告時間に合わせて1人8分間ずつとした。

#### 5. 開発教育・国際理解教育のできる事 12:13-[17]

- ◇ 研修と実践を通して開発教育・国際理解教育のできる事として、得られた成果・よい影響(自分/学習者/周囲:同僚・保護者・地域など)をグループで話し合い、模造紙に表形式にまとめた。
- ◇ 模造紙の回し読みにより共有し、良いと思うアイデアに☆を付けた。



## 【開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響（自分／学習者／周囲）のまとめ】

## ■ 自分にとって -----

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ◇自分をみつめなおす         | ◇視野が広がる            |
| ◇協力隊への興味、関心        | ◇寛容になる、優しくなる       |
| ◇他者を思うようになる        | ◇気づき、考える           |
| ◇コミュニケーション能力向上     | ◇人とのつながり、出会い       |
| ◇調べる様になる           | ◇環境を意識する           |
| ◇授業が変わりバリエーションが増えた | ◇手法が増えた、スキルアップ     |
| ◇おどろきの連続           | ◇日本を誇れるようになる       |
| ◇より良い未来を描ける        | ◇学び続ける姿勢、アンテナ張り続ける |
| ◇行動の重要性を知る         | ◇楽しい               |
| ◇ねらいを考える           | ◇仕事に対する思い          |
| ◇学習者の思考を考えられる      | ◇心が豊かになる           |

## ■ 学習者にとって -----

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| ◇自分のことを振りかえる          | ◇視野が広がる                  |
| ◇JICA や協力隊への興味、関心がわく  | ◇寛容になる、優しくなる、肯定的になる      |
| ◇相手、他者を思う、みんなの心が豊かになる | ◇コミュニケーション能力が上がる         |
| ◇人とのつながりが広がる          | ◇本などで調べるようになる            |
| ◇環境を意識する              | ◇協調性・主体性が向上する            |
| ◇将来の選択肢が増える           | ◇自尊感情が高まる                |
| ◇偏見に気付く               | ◇楽しい                     |
| ◇時事問題に関心を持つようになる      | ◇人任せにしなくなる、自分のこととして考えられる |
| ◇世界を身近に感じる            | ◇行動変容につながる               |
| ◇考える力がつく              | ◇より良い未来を描けるようになる         |

## ■ 周囲（同僚・保護者・地域など）にとって -----

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| ◇視野が広がる        | ◇きっかけづくり            |
| ◇協力隊への興味を持つ    | ◇あたたかな人間関係が生まれる     |
| ◇環境問題などへの意識高まる | ◇社会変革につながる、動きがうまれる  |
| ◇海外に目を向けさせられる  | ◇学習者に誘われてボランティアに参加  |
| ◇情報提供をしてくれる    | ◇フェアトレードについて知ってもらえる |
| ◇教員に参加型が広まる    | ◇学校に対しての信頼がアップする    |
| ◇意識が変わる        | ◇協力者ができる            |

- 休憩 - 12:30-[60]

## ● セッション2 「実践報告フォーラムのための準備」

## 1. 実践報告フォーラム 2015 の進め方と受講者の動きの説明 13:30-[33]

- ◇ 実践報告シートのテーマごとに事務局が設定したA～Hのワークショップ提供チームに分かれた。
- ◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2015 の進め方について」と昨年度の写真（パワーポイント）を基に、フォーラム当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。
- ◇ 明日ワークショップを提供するにあたり、NIEDが大切にしている3つの信じる力を説明した。



## 2. ワークショップ 60 分の進め方の説明 14:00-[22]

- ◇ 一言自己紹介「フォーラム参加者に一番持って帰ってほしいもの」「わたしの心掛け」をグループで紹介しあった。

- ◇ 実践体験ワークショップの60分間の基本的な使い方、当日予想される状況について以下のとおり説明した。
  - ① 「アイスブレイキング」「メイン」「ふりかえり」という一連の流れを参加型で提供する。
  - ② 各ワークショップの参加者は35人前後で、A会場は平均より多く、C会場は平均より少ない。

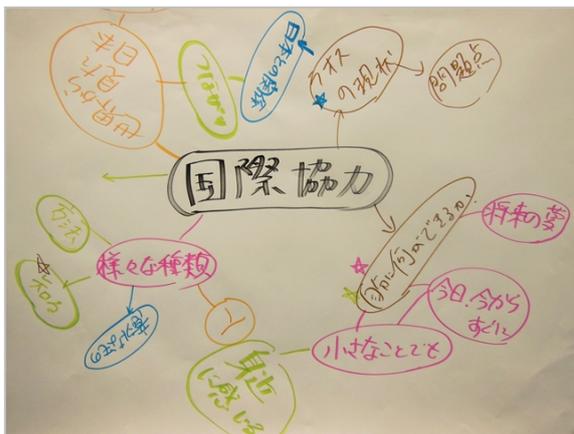
### 3. チームメンバーの実践内容の共有 14:22-[63]

- ◇ チームの中で、順に実践を報告し、その際、聞く手は「ここいいね！」&「フォーラムで提供したらよいと思う」を付せん紙に書き留めた。その後、付せん紙に書いた内容を、報告者に伝えた。



### 4. プログラムづくり 15:25-[99]

- ◇ プログラムづくりの進め方についてファシリテーターが説明した。
- ◇ チームメンバーの実践を基本に、ワークショップ参加者にどんな気付きを持って帰ってほしいかを派生的なブレインストーミングで書き出し、提供するワークショップのねらいの方向性をチームで定めた。
- ◇ ねらいを実現するワークショッププログラムをチームで検討し、指定の項目（テーマ、メンバー氏名、タイトル、ねらい、プログラムの流れ、ポイント）について模造紙にまとめた。



**B 国際協力**  
 タイトル: えー!!? 知らなかったよ~!!  
 ねらい: 「知る」ことが国際協力の第一歩であることに気付く。

**プログラムの流れ**

- ① 自己紹介・なまり自己紹介をする。  
 ○ 今自分が(いると男)国際協力とつ+名前  
 ○ ラオスの大切なお知らせを覚える時は想像して自己紹介
- ② フォトランゲージをする。  
 ○ 各グループ(班)  
 ○ 写真や実物とそれにストーリーを添える。
- ③ みんなでラオスを知る。(共有)  
 ○ 実際の内容を知り。  
 ○ グループ内で聞いたストーリーを話し合う。
- ④ ふりかえりをする。  
 ○ 今日の学習で一番印象に残ったこと、その理由をさぐり  
 まとめ

**ポイント**  
 ★ 否定しない

## ● セッション3 「実践報告フォーラムのための調整」

### 1. 各チーム作成のプログラムの共有 17:04-[31]

- ◇ スクリーンの使用の有無、人数規模の希望などを考慮して、会場決めを行った。
- ◇ 各チームのワークショッププログラムの概要を全体で2分間ずつ発表し、内容を共有した。
- ◇ 予定しているアイスブレイキングに重複がないことを確認した。
- ◇ ファシリテーターがプログラム発表を聞いて気づいたこと・全体的なアドバイスを伝えた。



### 2. フォーラムでの役割などの最終調整 17:35-[15]

- ◇ ワークショップにおける役割をチームで決め、事務局に用意してほしい必要備品を用紙に書き出した。
- ◇ 代表者のじゃんけんで海外研修発表順を決めた。
- ◇ フォーラムの最後にあいさつをする研修受講者代表者を自薦で選出した。

### 3. 事務連絡 17:50-[10]

- ◇ 明日の実践報告フォーラムの開場時間、集合時間などの周知を事務局が行う。
- ◇ その他事務連絡を行った。

★ 18:00 終了